

瀬田川

●具体的な整備内容

本川と支川との合流部において、関係機関と連携して魚類等の遡上・降下に配慮した構造を検討する。

瀬田川 流入支川合流部

●検討内容

- ・モニタリング方法の検討
- ・縦断方向の連続性を確保する構造の検討
- ・住民意見等の反映
- ・改修後の河川環境の予測

●スケジュール



●空撮写真・横断面

篠部川河口



千丈川河口



平面図



## 整備効果

### 1. 事業効果

支川合流部は現在、落差があり瀬田川との連続性が確保できておらず魚類等の遡上・降下に支障をきたしていたため、瀬田川の魚類等にとって本来あるべき移動経路を河川管理者が落差の改良及び魚道等の設置をすることで、本川と支川の移動経路を確保し遡上・降下ができる生息環境が期待される。

提案理由(代替案含む)

#### 箇所決定方法

縦断方向の河川形状を分断している横断構造物(落差工)について、その改善を図るため、瀬田川への流入河川合流部において魚類等の遡上・降下状況について把握し、縦断方向の連続性について検討し必要箇所を決定する。(現時点で把握されている必要箇所は、篠部川河口および千丈川河口の2カ所。)

#### 委員会等からの意見

「整備計画進捗状況報告」においては、「事前モニタリング実施予定」とあるだけである。少なくともモニタリングの方法を明示し、さらにどのような結果が予測されるのか、それをもとにどのように修復方法を検討し実施するつもりなのかについて、直ちに内容を明示されたい。

また、琵琶湖とそれに流入する河川を含め、直轄でない河川にあるすべてのダム・堰等についても、その整備は全体として検討しなければならないことは、「基礎原案に係る具体的な整備内容シートについての意見書」において指摘したにも係らず、「基礎案に係る具体的な整備内容シート」に記載されておらず、さらに今回の「進捗状況報告書」でも扱われていないことは、極めて遺憾である。直ちに「検討」に入られたい。

【琵琶湖部会】

#### 進捗状況

瀬田川と篠部川合流部との落差の改善については、篠部川河口部にボックスカルバートを設置し、篠部川を渡れるよう散策路の整備に併せて改善を図っている。(維持 - 17を参照)

これにより、これまで9月1日から10月15日までの洪水期制限水位(BSL-0.30m)時には、落差が生じていた合流部が連続することとなる。

#### 今後の見通し等

河川水辺の国勢調査により、瀬田川(唐橋から篠部川合流付近)の魚類の生息状況を調査していく。

#### 進捗状況

